一宮市は、市制施行100周年を迎える2021（令和３）年４月の中核市移行を目指しています。中核市に関するいろいろな情報を紹介します。

第６回　中核市移行までのスケジュール

平成30年２月に市長が中核市移行を表明した後、移行準備のための部署を設置するなど庁内の体制を整えた上で、県の協力を得て移行への取り組みを本格化させました。

現在は県から引き継ぐ仕事の範囲や内容、職員の研修などについて協議を重ねています。今後も、中核市移行に向けた手続きを中心に、引き続き準備を進めていきます。

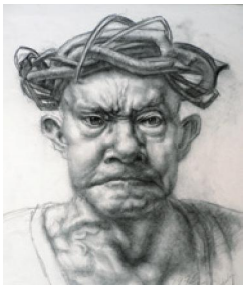
年	月	これからの予定	
令和２年	１月	中核市移行の手続き	総務省・厚生労働省によるヒアリング
	３月		市議会へ申出議案提出
	４月		県知事へ同意を申入れ
	６月		県知事が県議会に同意議案提出
	７月		県知事が一宮市へ同意
	８月		総務大臣へ申出
	10月		閣議決定、政令公布
	12月	市議会へ関係条例案の議案提出	
令和３年	３月	県・市による事務引継書の締結	
	４月	**中核市移行** 一宮市保健所開設	

【問】中核市移行推進課　☎(85)7003

いちのみや　あれこれ　～筧忠治（かけひちゅうじ）　自画像を描き続けて～

筧忠治（1908～2004）は一宮市萩原町に生まれ、小信中島の農業と織物業を営む家で幼少期を過ごしました。父の事業進出のため、８歳の時に名古屋に移りますが、13歳の時に父を亡くしました。14歳から愛知県測候所（現在の名古屋地方気象台）で働く傍ら、独学で絵を描き続けました。

一宮市博物館では、ゆかりの画家として多くの作品を所蔵しています。野良猫や花の作品でも知られますが、特に自画像は生涯にわたって取り組んだ重要なテーマです。20歳前後の頃から、仕事の待機時間中にペンで何百枚も自身の姿を描いていました。素早いタッチのあっさりとしたスケッチから、やがてコンテや鉛筆による気迫ある表情を捉えた作品になっていきました。


▲藤蔓を冠した年老いたる自画像

右の作品は晩年のもので、若い頃の勢いのあるタッチとは異なる、繊細で柔らかい陰影表現が見られます。しわの多い年老いた姿ではありますが、目や鼻、口元の力強さは、内から生命力が湧いてくるようです。「僕と、鏡と、この作品と、これらが一体にならなくてはならない」と語るほど、一心に鏡に映る自身を見つめ、亡くなるまで描き続けました。

博物館では、特集展示「尾張の洋画　筧忠治」（12ページ参照）を開催します。独自の世界を貫いた、力強い作品をお楽しみください。

【問】博物館　☎(46)3215